

学校・教員の取組と児童生徒の「課題対応能力」：
『キャリア教育に関する総合的研究』の校種間比較分析の結果から

Relationship between Endeavors of schools and teachers and Perceptions
of students on their “competency of problem-solving” : Based on the
“Comprehensive Research Project on Career Education in Japan 2019.”

長田 徹^{*1}・立石 慎治^{*2}

OSADA Toru and TATEISHI Shinji

Abstract

In this paper, we introduce the results of a cross-tabulation of the survey items concerning the relationship between students' perception of “competency of problem-solving” and both schools' endeavors and teachers' attitudes.

In elementary schools, it may impact the students' genuine sense of seeing for themselves their “competency of problem-solving,” namely, overall goals of career education in the whole school teaching plan, lesson practices such as panel discussions on career choices and lifestyles, the class management plans on career education following students' stage of career development, the teaching of career education based on the whole school and annual teaching plans, and having the students reflect on their own growth.

In junior high schools, it will lead to students' sense of possessing the “competency of problem-solving,” such as inclusion of the evaluation relating to the outcomes of career education in the whole school teaching plan, visits to the workplace, research on the job, pre and post-guidance relating to internships at workplaces and higher education institutions, provision of career counseling, and encouraging students to reflect on their growth by career counseling. Additionally, it may impact the students' sense of “competency of problem-solving,” such as teachers' guidance on identifying causes and measures of the problem to solve and appropriate planning, doing, checking, and action of improvements when to learn.

In senior high schools, the endeavors relating to career education vary due to each direction of school management. However, in general, the inclusion of “evaluation relating to the outcomes of careers education” in the whole school teaching plan and the inclusion of “incorporating careers counseling” in the annual teaching plan may have an impact on students' genuine sense of possessing the “competency of problem-solving.”

^{*1} 生徒指導・進路指導研究センター 総括研究官、同キャリア教育総括調査官

^{*2} 生徒指導・進路指導研究センター フェロー（筑波大学教学マネジメント室助教）

1. はじめに

本稿の目的は、『キャリア教育に関する総合的研究 第二次報告書』の中でも、課題対応能力に迫る論考に焦点を絞り、その内容を紹介することである。

国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センターは、令和元年度から同2年度にかけて『キャリア教育に関する総合的研究』（以下、『総合的研究』）を実施した。この『総合的研究』は、過去7年に1度実施されてきた進路指導・キャリア教育に関する調査研究事業の後継に当たる。その前進の調査研究事業（国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター 2013a、2013b）同様に、「日本の小学校、中学校、高等学校におけるキャリア教育（・進路指導）の推進・充実を図るため、キャリア教育に関する実態を把握するとともに、それらに関する在校生の意識等も明らかにし、今後の各学校におけるキャリア教育の改善・充実を図るための基礎資料を得る」ことを目的に企画・実施されたものである。

その主軸となるのは、令和元年7月から10月に実施した3つの調査である。具体的には、管理職に依頼した「小学校、中学校、高等学校におけるキャリア教育に関する実施状況と意識調査（学校調査）」、教員に依頼した「学級・ホームルーム担任のキャリア教育に関する意識調査（学級・ホームルーム担任調査）」、そして、児童生徒に依頼した「在校生の進路に関する意識調査（児童生徒調査）」の計3つである。

この調査は、日本の公立小学校、公立中学校、公立高等学校を対象とした抽出調査となっている。詳細な手法等については、国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター（2020）に譲るが、配布数や回収率については下表に示す。

表1 票の種類と配布数

	学校種類	対象学校数	調査票配布数	回答学校数	回答者数	回収率
学校調査	小学校	1,000 校	1,000 枚	795 校	-	79.5%
	中学校	500 校	500 枚	397 校	-	79.4%
	高等学校	1,000 校	1,000 枚	716 校	-	71.6%
学級・ホームルーム担任調査	小学校	1,000 校	5,000 枚	800 校	1,562 人	98.3%
	中学校	500 校	5,000 枚	400 校	1,379 人	97.2%
	高等学校	1,000 校	10,000 枚	724 校	4,066 人	94.2%
児童生徒調査	小学校	134 校	6,030 枚	110 校	2,908 人	98.2%
	中学校	134 校	6,030 枚	118 校	3,426 人	93.7%
	高等学校	126 校	5,670 枚	101 校	3,606 人	98.0%

※学校調査の回収率は、回答学校数を対象学校数で除して算出。学級・ホームルーム担任調査と児童生徒調査の回収率は、回答者数を回答いただいた学校に在籍する対象者数で除して算出している。

この調査を基に、『キャリア教育に関する総合的研究 第一次報告書』（国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター 2020）及び『キャリア教育に関する総合的研究 第二次報告書』（国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター 2021）が刊行された（以下、『第一次報告書』及び『第二次報告書』）。『第一次報告書』では、基礎集計や各調査結果の要点の解説が報告されている。『第二次報告書』では、『第一次報告書』を踏まえ、次に示す複数の課題―すなわち、キャリア教育の推進・充実を図る上で重要となる課題―を設定し、分析した結果を載録している。そ

の課題とは、以下のとおりである。

- 各校種に共通して設定されたテーマ
 - ・キャリア教育によるカリキュラム・マネジメントの効果
 - ・職業に関する体験活動の重要性
 - ・「キャリア・パスポート」の有用性
- 校種間を比較する分析において設定されたテーマ
 - ・学校・教員の取組と児童生徒の「学びのレリバンズ意識」
 - ・学校・教員の取組と児童生徒の「課題対応能力」

本稿は、「研究成果報告」という位置づけ及び昨今の社会情勢の双方に鑑み、上記の中から課題対応能力に関する章に焦点を絞って紹介する。次節でも述べるとおり、「自然災害や感染症の流行等、想定していない状況に巻き込まれることが実際に起きている」。ましてや、当該研究がスタートしたころ、あるいは、『第二次報告書』が刊行された時点では、感染症の流行が起きることはもとより、これほど対応が長期化することも想定しえなかったことも合わせて考えるならば、この課題対応能力は社会の構成員であるどの人にも問われていることはより確かと思われる。であれば、少なくとも、「このような社会情勢の下でキャリア形成していくことを考えると、特に児童生徒にとっては、自身の置かれた状況を適切に判断し、その時々課題を着実にクリアする力が決定的に重要になる」こともまた、その重要性は増してはいても減じることはないようにも思われる。以上が、「『研究成果報告』という位置づけ及び昨今の社会情勢の双方に鑑み」たが意味するところである。

上述のとおり、次節以降は『第二次報告書』の「4. 各学校種調査結果の比較分析（3）テーマ2 学校・教員の取組と児童生徒の『課題対応能力』」（pp.134-146）を再録しているが、計画及び実践にかかる部分を抜粋、再構成の上でまとめについて一部加筆を行った。そのため、『第二次報告書』の内容とは異なる部分がある。また、あえて断っておくと、以下で示す分析は因果を示したのではなく、記述とその結果に基づく推論を重ねたものである。

2. 研究成果の紹介 ― 課題対応能力に関する分析結果から

2-1. 背景と目的

先を見通すことが難しい社会であると言われているが、自然災害や感染症の流行等、想定していない状況に巻き込まれることが実際に起きている。

このような社会情勢の下でキャリア形成していくことを考えると、特に児童生徒にとっては、自身の置かれた状況を適切に判断し、その時々課題を着実にクリアする力が決定的に重要になる。こうした、状況判断と課題設定、設定した課題をクリアする力、すなわち基礎的・汎用的能力の中の「課題対応能力」は、急に身に付くものではなく、学校の教育活動全体を通じて育まれるものであり、カリキュラム・マネジメントや体験活動、キャリア・パスポートといった各種の働きかけを通じて、気づきを促し、主体的に考えさせ、行動や意識の変容を企図して働きかけること（＝キャリア・カウンセリング）を通じて身に着けるものである。

以上のように、「課題対応能力」の重要性を改めて確認せざるを得ない状況であり、児童生徒

が身につけるべき資質・能力としての「課題対応能力」への関心が高まる一方で、国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター（2020：18-19）が示したとおり、教師の指導の力点は必ずしも「課題対応能力」には置かれてこなかったことが明らかになっている（小学校教員で「課題対応能力」をよく指導していると答えた者の割合は、28.8%）。

各学校や児童生徒の実態を踏まえてキャリア教育が推進されるべきであることに鑑みれば、すべての学校で「課題対応能力」を伸長する指導をすべきとは限らない。しかし、児童生徒が在学時及び学校を離れたあとでも継続的にキャリア形成をしていけるようになるための基盤と考えれば、今後のキャリア教育の全体計画・年間指導計画の改善時に、「課題対応能力」の視点からキャリア教育目標及び計画を再考したい学校もあるかもしれない。

このことを踏まえて、学校及び教員のキャリア教育に係る取組状況の中から「課題対応能力」に関連する要因を探索する。その結果を踏まえ、「課題対応能力」の指導に重点を置きたい学校及び教師にとっての示唆を提示する。

2-2. 「課題対応能力」について

本稿では、「課題対応能力」として、次の3つの調査項目に着目した。なお、いずれの回答も「いつもそうしている」「時々そうしている」「そうしていない」の3つの選択肢による回答が得られている。

1つ目は、「情報収集」であり、小学生は「知りたいことがある時、進んで情報を集めている」、中学生は「調べたいことがある時、進んで情報を集めている」、高校生は「調べたいことがある時、取捨選択しながら必要な情報を進んで収集している」の項目で調査をしている。

2つ目は「課題解決」であり、小学生は「何か問題が起きた時、原因を考えて、解決するように工夫している」、中学生・高校生ともに「何か問題が起きた時、原因を考え、次に同じような問題が起きないように工夫して解決している」という項目で調査をしている。

3つ目は、「PDCA サイクル」であり、小学生は「何かをする時は、計画を立て、工夫しながら進めている」、中学生は「何かをする時、見通しをもって計画を立て、改善をしながら取り組んでいる」、高校生は「何かに取り組む時は、見通しをもって計画を立て、評価や改善を加えて実行している」という項目で調査をしている。

これらの項目の回答分布は『第一次報告書』（p.97, 155, 234）に示されており、全体としては肯定的な回答割合が高いことが確認できる。分析に当たり、いずれの項目も「いつもそうしている」に焦点を絞り、それらの回答をした該当項目数に着目した。その分布を示したのが図1である。

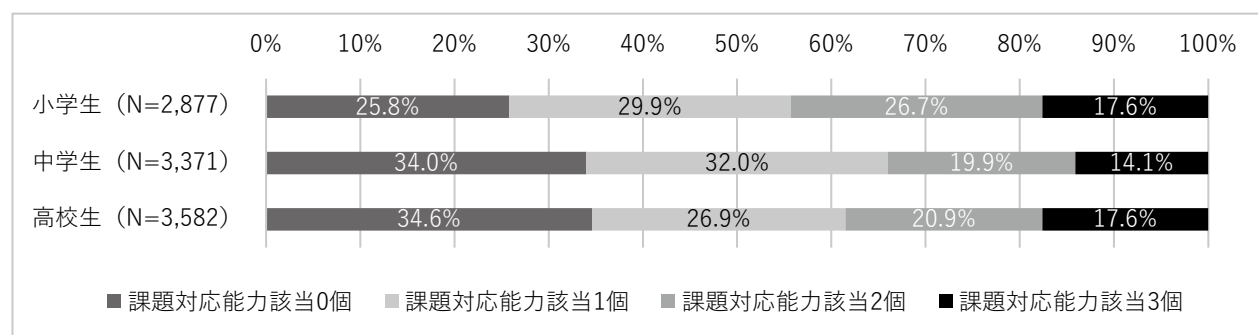


図1 課題対応能力に関する項目に「いつもそうしている」と回答した項目数の分布

注) 児童生徒調査 小学生：問5、中学生：問8、高校生：問10

2-3. 学校調査データを用いた分析

学校調査から把握される各学校における取組状況について、「計画策定」「企画・実践面の内容」にかかる調査項目に着目した。「計画策定」は全体計画と年間指導計画を策定しているか否か及び各計画に盛り込んだ事項に着目した。「企画・実践面の内容」に関しては、「授業実践」に関する内容と、「体験活動」に関する内容のそれぞれに関し、実施しているものと児童生徒の「課題対応能力」との関連性について分析を行った。なお、本分析では「計画の重視事項」から各計画に盛り込んだ項目へと着目する変数に限って取り上げている。

表2 調査項目と各調査票の設問番号の対応表（学校調査・児童生徒調査）

	内容・要素	調査項目	小学生	中学生	高校生
学校調査	計画策定	全体計画の策定有無	問 4(1)A	問 4(1)A	問 6(1)A
		全体計画に盛り込んだ事項	問 4(1)B	問 4(1)B	問 6(1)B
		年間指導計画の策定有無	問 4(2)A	問 4(2)A	問 6(2)A
		年間指導計画に盛り込んだ事項	問 4(2)B	問 4(2)B	問 6(2)B
	企画・実践の内容 (授業実践)	キャリア発達を意識した各教科（・科目）の授業	問 11_1	問 11_1	問 13_1
		進路や生き方に関する話し合いやパネルディスカッションの実施	問 11_7	問 11_7	問 13_7
		就職後の離職・転職など、将来起こり得る人生上の諸リスクへの対応に関する学習	問 11_16	問 11_16	問 13_16
	企画・実践の内容 (体験活動)	職場の訪問や見学、職業の調査・研究活動	問 11_8	問 11_8	問 13_8
		事業所における体験活動	問 11_9	問 11_9	問 13_9
		上級学校における体験活動	問 11_10	問 11_10	問 13_10
		事業所や上級学校での体験活動にかかわる事前指導・事後指導	問 11_11	問 11_11	問 13_11

上記の各項目と児童生徒の「課題対応能力」とのクロス集計に関し、 χ^2 検定の結果を整理すると、下記ようになった。

表3 学校の取組状況と「課題対応能力」との関連にかかる分析結果（学校調査・児童生徒調査）

	内容・要素	調査項目	小学生	中学生	高校生
学校調査	計画策定	全体計画の策定有無			
		・キャリア教育の全体目標	**		
		・キャリア教育の成果に関する評価方法		*	
		年間指導計画の策定有無			
		・キャリア・カウンセリング	—		**
	企画・実践の内容 (授業実践)	キャリア発達を意識した各教科（・科目）の授業			
		進路や生き方に関する話し合いやパネルディスカッションの実施	*		
		就職後の離職・転職など、将来起こり得る人生上の諸リスクへの対応に関する学習	—		
	企画・実践の内容 (体験活動)	職場の訪問や見学、職業の調査・研究活動		*	
		事業所における体験活動			
		上級学校における体験活動			
		事業所や上級学校での体験活動にかかわる事前指導・事後指導		*	

**：p < 0.01、*：p < 0.05

注）実施していない学校の児童生徒の方が「課題対応能力」の肯定的な回答割合が高いという関係であった場合には網掛けをした。横棒が入ったセルは回答が存在しない、もしくは、全ケースが特定の選択肢に集中して、検定ができなかった場合を指す。

小学生・中学生については、いくつかの点に関して、学校でのキャリア教育に関する取組の実施と児童生徒の「課題対応能力」との間に関連性を見出すことができた。

小学生の場合には全体計画策定時に「キャリア教育の全体目標」を盛り込むこと、「進路や生き方に関する話し合いやパネルディスカッションの実施」などの授業実践が正の関連性を有していた。

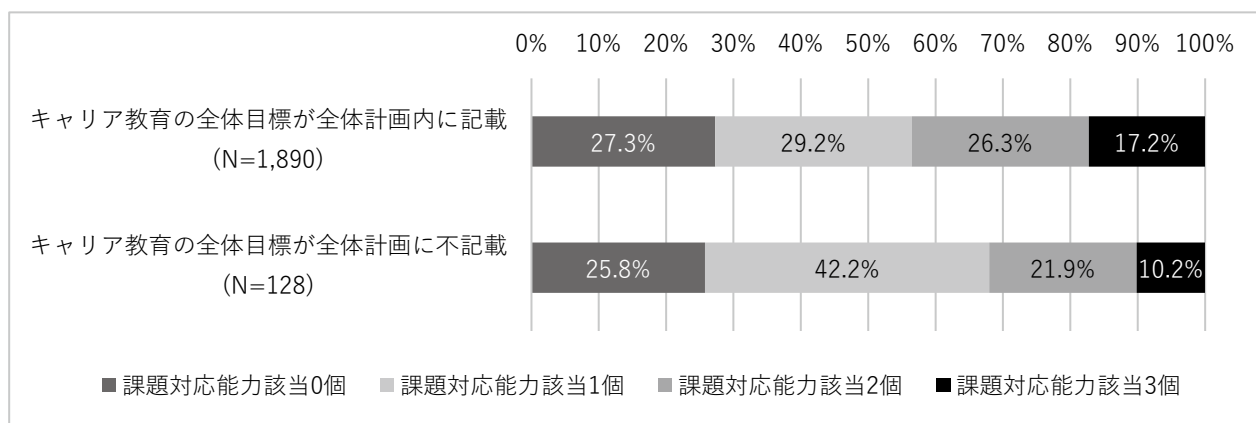


図2 全体計画に「キャリア教育の全体目標」が記載されているかと「課題対応能力」に関する小学校児童の肯定的回答数の関係

中学生の場合には全体計画策定時に「キャリア教育の成果に関する評価方法」を盛り込むこと、「職場の訪問や見学、職業の調査・研究活動」「事業所や上級学校での体験活動にかかわる事前指導・事後指導」の実施が「課題対応能力」と正の関連性を有していた。特に「事前指導・事後指導」が正の関連性を有していることは重要である。中学校における職場体験の実施率は既に9割を超えており、実態としてほとんどの学校において実施されている。このような状況に鑑みれば、更なる充実を図る上での要点は「事前指導・事後指導」となるが、計画に盛り込むことでその実施も充実が図られる可能性が示唆される結果である。

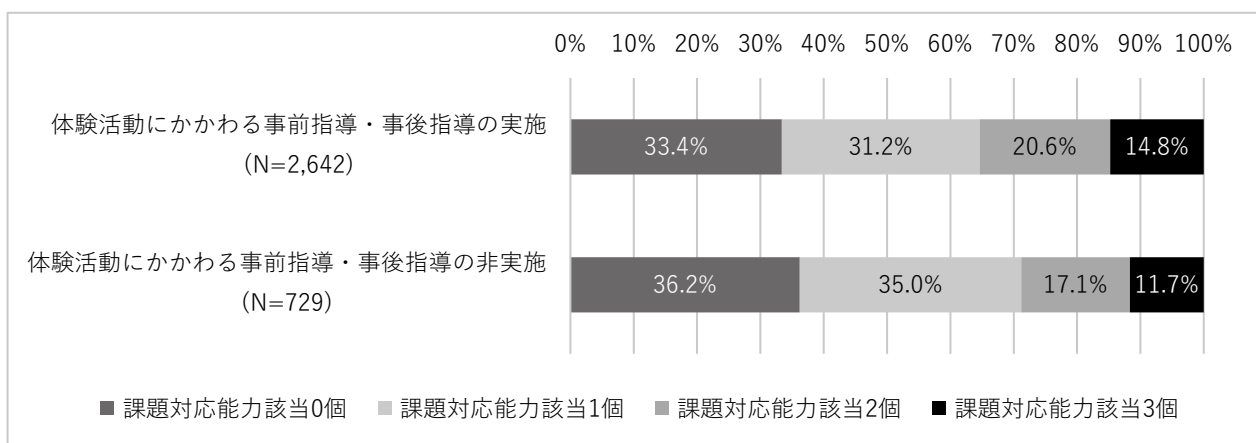


図3 「体験活動にかかわる事前指導・事後指導」の実施状況と「課題対応能力」に関する中学校生徒の肯定的回答数の関係

高校生については、年間指導計画内に「キャリア・カウンセリング」が盛り込まれていることが正の関連性を有していた。キャリア・カウンセリングの趣旨にのっとった教員の働きかけによ

り生徒の課題認識が促されている可能性が示唆される。

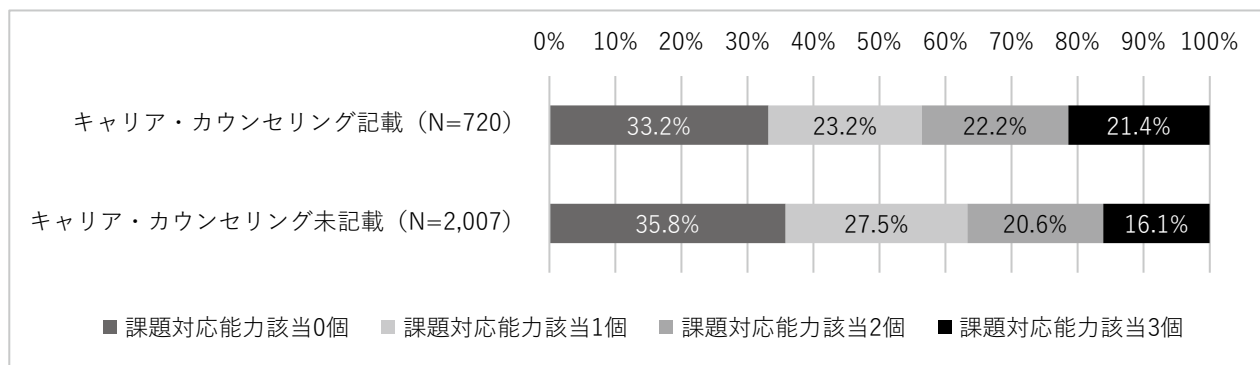


図4 年間指導計画内の「キャリア・カウンセリング」の記載状況と「課題対応能力」に関する中学校生徒の肯定的回答数の関係

さらに、高校について「普通科」の生徒と「それ以外の学科」の生徒に分けた集計結果を下記に示す。なお、進路多様校と推定される進学率4割未満の学校に関する集計結果も併せて提示した。

表4 学校の取組状況と「課題対応能力」との関連にかかる分析結果
(高校のみ) (担任調査・生徒調査)

	内容・要素	調査項目	普通科	その他	進学率 4割未満
学校調査	計画策定	全体計画の策定有無			
		・キャリア教育の全体目標			
		・キャリア教育の成果に関する評価方法		*	**
		年間指導計画の策定有無			
		・キャリア・カウンセリング	**		**
	企画・実践の内容 (授業実践)	キャリア発達を意識した各教科・科目の授業			
		進路や生き方に関する話し合いやパネルディスカッションの実施			
		就職後の離職・転職など、将来起こり得る人生上の諸リスクへの対応に関する学習			
	企画・実践の内容 (体験活動)	職場の訪問や見学、職業の調査・研究活動			
		事業所における体験活動			—
		上級学校における体験活動	*		
		事業所や上級学校での体験活動にかかわる事前指導・事後指導			

** : $p < 0.01$, * : $p < 0.05$

「普通科」の場合には、年間指導計画に「キャリア・カウンセリングを取り入れること」を盛り込むこと、「上級学校における体験活動」を企画・実施することとの間で正の関連性が見られた。特に後者については、上級学校を体験する一連の過程の中で行う調べもの等を通して生じた知りたいこと等を調べる経験等が関連している可能性がかいま見える結果である。

他方で、「それ以外の学科」の場合には、キャリア教育に関する取組と「課題対応能力」との間の関連性は、全体計画に「キャリア教育の成果に関する評価方法」が盛り込まれているかという項目に見出せる。「キャリア教育の成果に関する評価」を明確に定めることで、生徒の実態を

踏まえることが「課題対応能力」の伸長に関連する可能性、又は、そうした評価を行う過程で生徒自身も自身の能力の伸長を自覚することが関連する可能性がありうる。

「進学率4割未満」の高等学校の生徒については、全体計画に「キャリア教育の成果に関する評価方法」が盛り込まれていること、年間指導計画に「キャリア・カウンセリングを取り入れること」が盛り込まれていることが正の関連性を有していた。その影響の仕方については前述したとおりだが、進路多様校と推測される進学率4割未満の高等学校においては、適切に生徒の実態を捉え、キャリア・カウンセリングを行っていくことが生徒の能力獲得実感と関連していることは今後の実践に向けて重要な意義がある結果である。

2-4. 担任調査データを用いた分析

児童生徒の課題対応能力に影響を与えうる要因として、学校のみならず、教員のキャリア教育に関する態度や、児童生徒への働きかけを想定できる。そこで、担任調査から把握される、担任教員の態度・働きかけの違い等について着目する。「キャリア教育に関する態度」としては、教員のキャリア教育に関する認識・理解度の高さに着目した。「計画に基づく学級・ホームルーム実践」としては、学級・ホームルーム又は学年におけるキャリア教育の計画・実施の状況やキャリア・カウンセリングに着目した。「児童生徒への働きかけ」については、「課題対応能力」に直接的に作用しうるような指導をどの程度実施しているかということ及びキャリア・カウンセリング内で行わせている振り返りに着目した。

表5 調査項目と各調査票の設問番号の対応表（担任調査・児童生徒調査）

	内容・要素	調査項目	小学生	中学生	高校生
担任	キャリア教育に関する態度	学校のキャリア教育目標に関する認識・理解度	問4	問4	問5
		「基礎的・汎用的能力」に関する認識・理解度	問5	問5	問6
	計画に基づく学級・ホームルーム実践	学級・ホームルームまたは学年のキャリア教育の計画は、児童のキャリア発達の課題に即して作成されたものである	問6	問6	問7
		学級・ホームルームまたは学年のキャリア教育は計画に基づいて実施している	問6	問6	問7
		キャリア・カウンセリングを実施している	問6	問6	問7
	児童生徒への働きかけ	調べたいことがあるとき、自ら進んで資料や情報を集め、必要な情報を取捨選択すること	問8(7)	問8(7)	問9(7)
		起きた問題の原因、解決すべき課題はどこにあり、どう解決するのかを工夫すること	問8(8)	問8(8)	問9(8)
		活動や学習を進める際、適切な計画を立てて進めたり、評価や改善を加えて実行したりすること	問8(9)	問8(9)	問9(9)
		児童生徒に対してこれまでの成長について振り返りをさせている	問11	問11	問12

上記の各項目と児童生徒の「課題対応能力」とのクロス集計に関し、 χ^2 検定の結果を整理すると、下記の結果が得られた。

小学生に関しては、「計画に基づく学級・ホームルーム実践」のうち「キャリア教育の計画は、児童のキャリア発達の課題に即して作成された」こと、「キャリア教育は計画に基づいて実施している」こと、「児童に対してこれまでの成長について振り返りをさせている」ことと「課題対応能力」との間に正の関連性がうかがわれた。自校の児童の状況を踏まえて計画し、その計画にのっとってキャリア教育を実践し、キャリア・カウンセリングの中で児童に自身の成長を振り返

表6 担任教員の取組状況と「課題対応能力」との関連にかかる分析結果
(担任調査・児童生徒調査)

	内容・要素	調査項目	小学生	中学生	高校生
担任	キャリア教育に関する態度	学校のキャリア教育目標に関する認識・理解度		**	
		「基礎的・汎用的能力」に関する認識・理解度			
	計画に基づく学級・ホームルーム実践	学級・ホームルームまたは学年のキャリア教育の計画は、児童のキャリア発達の課題に即して作成されたものである	*		
		学級・ホームルームまたは学年のキャリア教育は計画に基づいて実施している	*		
		キャリア・カウンセリングを実施している		**	
	児童生徒への働きかけ	調べたいことがあるとき、自ら進んで資料や情報を集め、必要な情報を取捨選択すること			
		起きた問題の原因、解決すべき課題はどこにあり、どう解決するのかを工夫すること		**	
		活動や学習を進める際、適切な計画を立てて進めたり、評価や改善を加えて実行したりすること		*	
		児童生徒に対してこれまでの成長について振り返りをさせている	*	*	

** : $p < 0.01$ 、* : $p < 0.05$

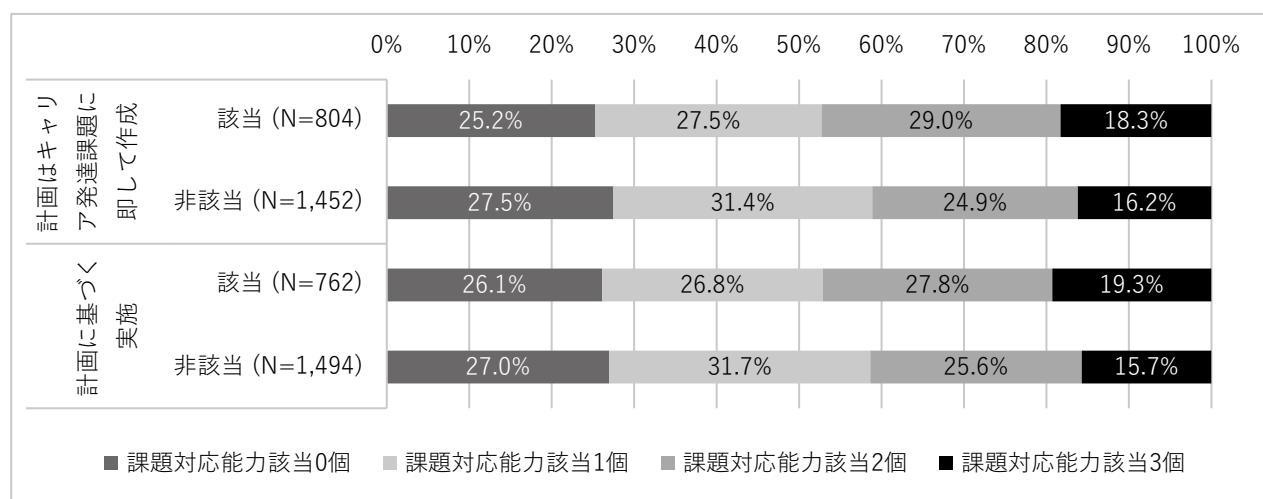


図5 学級でのキャリア教育での計画・実施状況と「課題対応能力」に関する小学校児童の肯定的回答数の関係

らせることが能力獲得実感に関連するとの解釈は決して不合理な結果ではないものと思われる。

中学生に関しては、「学校のキャリア教育目標に関する認識・理解度」について「学校でキャリア教育目標が設定されているかどうか分からない」と回答している場合に、生徒の「課題対応能力」が低いという関係がみられている。また、学級あるいは学年におけるキャリア教育で「キャリア・カウンセリングを実施」している場合に正の関連性がうかがわれる。加えて、「起きた問題の原因、解決すべき課題はどこにあり、どう解決するのかを工夫すること」「活動や学習を進める際、適切な計画を立てて進めたり、評価や改善を加えて実行したりすること」を担任教員が指導しているほど、また、キャリア・カウンセリングの中で生徒に自身の成長の振り返りを促すほど、生徒の「課題対応能力」獲得実感は高いという正の関連性が見られた。「課題対応能力」に関わる「起きた問題の原因、解決すべき課題はどこにあり、どう解決するのかを工夫すること」「活動や学習を進める際、適切な計画を立てて進めたり、評価や改善を加えて実行したりすること」

を指導していることと生徒の能力獲得実感が関連することは極めて合理的な結果である。小学校に続いて中学校においてもキャリア・カウンセリングの実践が生徒の能力獲得実感に関連していることは確認しておきたい。今後更なる推進・充実が図られるべきキャリア・パスポートを積極的に活用することもまた考慮すべきと思われる。また、自校のキャリア教育目標の理解度が生徒の能力獲得実感に関わっていることは、教育目標が教育実践の性質に影響する可能性を示唆するものである。

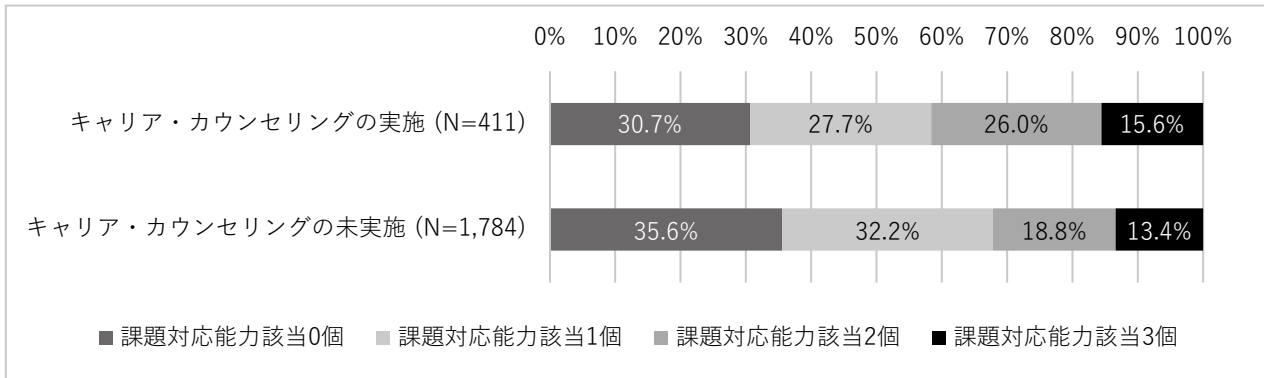


図6 学級での「キャリア・カウンセリング」の実施と「課題対応能力」に関する中学校生徒の肯定的回答数の関係

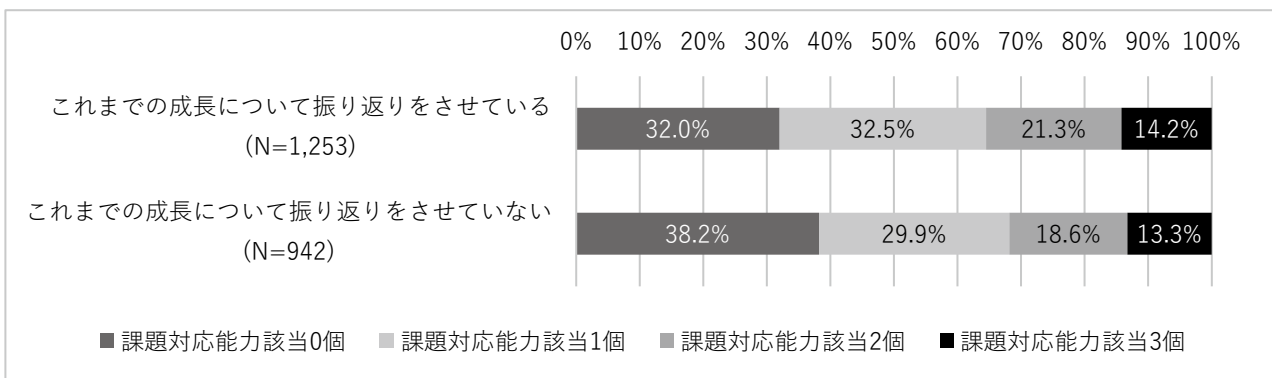


図7 キャリア・カウンセリング時における「成長の振り返りをさせている」かについての状況と「課題対応能力」に関する中学校生徒の肯定的回答数の関係

高校生に関しては、担任の取組状況と「課題対応能力」との間に明確な関連性がうかがわれる項目は見いだされていない。なお、高校については、前節のように「普通科」と「それ以外の学科」、「進学率4割未満」とに分けて分析しても、明確な関連性を見出すことができなかった。学校調査で見出すことができた「キャリア・カウンセリング」に関する項目についても担任調査では関連性が見られないということは個別の(担任)教員の個別の取組とは異なる経路で生徒の「課題対応能力」への働きかけが生じている可能性がありうるが、いずれにしても更なる調査研究を要する。

3. まとめ

本稿では、児童生徒の「課題対応能力」について、学校調査から把握される取組の状況と、担

任調査から把握される教員の態度・働きかけの状況との関連性について、調査項目間のクロス集計を行った結果を紹介した。その結果からは、以下のことが示唆される。

小学校においては、全体計画に「キャリア教育の全体目標」が盛り込まれること、「進路や生き方に関する話し合いやパネルディスカッションの実施」などの授業実践を行うこと、学級のキャリア教育の計画が児童のキャリア発達の課題に即して作成され、また、計画に基づいてキャリア教育を実施すること、児童に成長について振り返りをさせることが「課題対応能力」の能力実感に作用している可能性がある。

中学校においては、全体計画に「キャリア教育の成果に関する評価方法」を盛り込むこと、「職場の訪問や見学、職業の調査・研究活動」「事業所や上級学校での体験活動にかかわる事前指導・事後指導」を実施すること、学級におけるキャリア教育で「キャリア・カウンセリングを実施している」こととこれに関連してキャリア・カウンセリングの中で生徒に自身の成長の振り返りを促すこと、加えて、「起きた問題の原因、解決すべき課題はどこにあり、どう解決するのかを工夫すること」「活動や学習を進める際、適切な計画を立てて進めたり、評価や改善を加えて実行したりすること」を担任教員が指導することが「課題対応能力」の能力実感に作用している可能性がある。

高等学校においては、学校特性等の違いによりキャリア教育に関する取組状況が異なると考えられるため解釈が難しい部分もあるが、概して、全体計画に「キャリア教育の成果に関する評価方法」が盛り込まれていること、年間指導計画に「キャリア・カウンセリングを取り入れること」が盛り込まれていることが「課題対応能力」の能力実感に作用している可能性がある。

『第二次報告書』では、以上を踏まえて、キャリア教育実践を通じて「課題対応能力」の伸長を促そうとする場合、目標や評価に関わることを計画の上で明確にすること、体験活動のみではなく事前指導・事後指導も充実を図ること、キャリア・カウンセリングを通じて振り返りを促すことなど、これまでキャリア教育の実践上で重視されてきたことは変わらず重要であると述べられている。自然災害等により教育・学習環境は今後も変化を強いられることがあるかもしれないが、自校の児童生徒の状況を踏まえたキャリア教育目標にのっとり、児童生徒へ働きかけや対話を展開するという、本質的な部分は変わることがないことを確認したい。

なお、『第二次報告書』でも述べられたとおり、本稿で提示できたのは一時点の実態調査データを分析した結果である。キャリア教育の推進・充実という点からは、本稿で取り上げたトピックのみならず、カリキュラム・マネジメントや体験活動、「キャリア・パスポート」といった重要課題について、継続的な検証が求められる。

【付記】

本文中にも断りがあるように、本稿は『キャリア教育に関する総合的研究 第二次報告書』の「4. 各学校種調査結果の比較分析(3)テーマ2 学校・教員の取組と児童生徒の『課題対応能力』」(pp.134-146)の一部を抜粋の上再構成したものである。「研究成果報告」というカテゴリに鑑みたテーマ選定と再構成の方針を長田が、修正作業を立石が担当した。両者の協議のもと、生徒指導・進路指導研究センターの業務の一環として作成された。

【参考文献】

国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター, 2013a, 『キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調

査第一次報告書』

国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター, 2013b, 『キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調

査第二次報告書』

国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター, 2020, 『キャリア教育に関する総合的研究 第一次報告書』

国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター, 2021, 『キャリア教育に関する総合的研究 第二次報告書』